



特選

2010

全国公民科・社会科
教育研究会会長賞




普通預金

「金融と経済の明日」第8回高校生小論文コンクール

命の値段

群馬県・群馬県立前橋高等学校 2年 大澤 阿紋



薬局で母の隣に座って、薬の説明を聞きながら一瞬耳を疑った。「抗ガン剤がありますので、お支払額が高くなりますが大丈夫ですか?」「いくらぐらいになりそうですか」「13万円です」「え……」。母は想定外の値段だったようで、「ちょっと待っていただけますか」と僕をそこへ置いたままそそくさと立ち上がった。薬局の人は、慣れた感じで、何事もなかった風にしてしたが、正直僕は動揺していた。「何でそんなに高いんだ……お金がない人はどうするんだ……飲まなければ死ぬかもしれないのに……」。

命の値段をつきつけられた気がした。

昨年祖母は、大腸癌^{がん}になった。発見のきっかけは健康診断。微妙な時期だった。もう少し発見が遅れていたら大変なことになっていた。毎年検診を受けていたのが幸いだった。度重なる検査^{たび}、そして手術が行われた。家族が病気になるということは、大きな負担を強いられる。1つは、何としても家族を救いたいと思う気持ち。もう1つは高額な医療費だ。しかも、短期間で高額な医療費の負担を強いられる。傍ら^{かたわ}で見ても母の苦悩は明らかだった。退院を控えたある日、母の雰囲気^{かたわ}が急に明るい口調になった。「看護師さんから、高額療養費給付のことを聞いてきた」と言っていた。手続きをすれば、祖父が勤務していた会社から医療費が返ってくることが、分かった。その後、祖母が住む市からも高額医療費の援助があることが、分かった。

これをきっかけに、高額療養費制度というものがあると知った。これは、長期入院や治療が長引く場合などで、1か月の医療費の自己負担額が高額となった場合に、一定の金額(自己負担限度額)を超えた部分が払い戻される制度だ。事前に手続きをしておけば、自己負担限度額を超える部分の窓口での支払いがなくなるという。退院前に家族の心配が1つ減る。心強い味方だ。ただ、一般の人は、制度を知るきっかけがなかなかない。知ったとしても誰に相談し、どう

対応すればいいのか分からない。重い病気になっても、制度自体を知らないまま、大きな不安を抱え、診療や薬の値段を気にしながら通院することになる。高額な医療費が、命の値段になってはいけないと感じた。

僕は「健康保険限度額適用認定証」というのも初めて見た。事前に全国健康保険協会に「健康保険限度額適用認定申請書」を母が電話でとりよせ、提出すれば窓口での支払いが減るのだという。「難しくて母さんだけだったら無理だよ」と祖母が母に言うと、母は、「大変だけどありがたい」と言っていた。病人にはやはり家族のサポートが必要だ。そして、その家族をサポートする制度も必要だ。さらに、家族のサポートが受けられない重い病気を抱えた高齢者を制度で救うためのさらなる社会の仕組みも必要だと考えた。

一方で医療費抑制という言葉がニュースでよく耳にする。日本の医療費対GDP比は、OECD諸国の中でも低いのが現状である。日経ビジネスオンラインの記事には、いくら国民皆保険制度とはいえ、それを支える医療現場が崩壊したのでは元も子もなく、医療現場が健全に回っていくようなシステムづくり、財源の裏付けが早急に求められる、とあった。¹⁾厚生労働省は、2008年度の医療費動向調査の結果を発表した。高齢者人口の増加が医療費を押し上げる主因となっている。

国の年間医療費は、過去最高額を更新し続けており、今後も国家予算における医療費負担は増加していくと言われている。医療費のかかる高齢者の増加や高度医療による医療費の高額化も一因と言われ、高額医療が必要な祖母のいる僕にとっては他人事ではなく、身につまされる思いだった。

金融とか、経済という言葉は今までの僕にとっては、遠いところで勝手にお金が動いているようなイメージでしかなかった。しかし、祖母の病気を通して、医療費や医療制度、これらが家族、ひいては社会に与える影響について考えることになった。

病気と闘い命を救うには、お金がかかる。でも安易に医療費を抑制してしまえば、現場の医療が疲弊する。ベッドがあれば、医師や看護師がたくさんいれば、「病院のたらいまわし」もない。高額療養費制度によって救われる家族もある。健康診断がなければ早期発見もない。相反する複雑な事情の中で、経済はバランスを保っている。

医療制度も含め、僕たちは常に、これからの社会情勢を見据えた新しい経済システムを生み出していかなければならない。そして、その制度が一般の人に使いやすいものになるような社会の仕組みも必要だ。こういう制度や仕組みを支えていくことがこれからの僕たちの役割であろう。

事務局注 1) 日経ビジネスオンライン 2009年12月1日、「公的医療保険は大切な生活インフラ」

URL <http://business.nikkeibp.co.jp/article/money/20091130/210933/>

